

道路橋支保便覧 平成30年12月 正誤表

| ページなど                 | 誤   | 正  | 備考   | 摘要                        |
|-----------------------|---|--|--|---------------------------|
| P59<br>表-2.6.1<br>方法1 | 設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の経年の変化を前提とし、これを <b>影響的に</b> 評価した断面とすることで、その期間内における当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法  | 設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の経年の変化を前提とし、これを <b>定量的に</b> 評価した断面とすることで、その期間内における当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法   | 「影響」→「定量」  | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P59<br>表-2.6.1<br>方法2 | 設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の経年の変化を前提とし、当該部材等には影響を及ぼさない対策の追加等の別途の手段を付加的に講じることで、その期間内における当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法  | 設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の経年の変化を前提とし、当該部材等の <b>断面</b> には影響を及ぼさない対策の追加等の別途の手段を付加的に講じることで、その期間内における当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法   | 当該部材等「の断面」追加   | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P59<br>表-2.6.1<br>方法3 | 設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の <b>経年の変化</b> が現れる可能性がないか、無視できるほど小さいものとする一方で、当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法  | 設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等 <b>に及ぼす経年の影響</b> が現れる可能性がないか、無視できるほど小さいものとする一方で、当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法  | 「の経年の変化」→「に及ぼす経年の影響」   | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P143<br>10行目          | iii)式(4.5.5)に定める積層ゴムのせん断ひずみが、～  | iii)式(4.5.4)に定める積層ゴムのせん断ひずみが、～   | 式(4.5.5)→式(4.5.4)  | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P203<br>4行目～          | これは、桁との取付にあたって強度上のバランスを考慮し、いたずらに強度差が大きい材料を使用することは望ましくないため、それぞれ、その引張応力度及びせん断応力度の制限値を強度区分4.6及び10.9相当に抑えることとして抵抗係数により調整することとしている。  | これは、 <b>ボルト径により流通するボルトの区分が分かれる等の理由によるものであり、これまでの実績を踏まえたものである。</b>  | 誤の部分を削除<br>理由の記述が誤っていたため修正   | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P261<br>15行目～         | 50万回ごとの <b>正負交番載荷6回のうち1回目を除く2～6回目の平均値</b> に対して、せん断剛性又は等価剛性は、 <b>それぞれ</b> の変化率が±10%以内であれば圧縮作用に対する疲労耐久性を有すると考えられる。  | 50万回ごとの <b>鉛直荷重繰返し載荷4回</b> のせん断剛性又は等価剛性の変化率が <b>初期値に対して</b> ±10%以内であれば圧縮作用に対する疲労耐久性を有すると考えられる。   | 「正負交番載荷6回のうち1回目を除く2～6回目の平均値」に対して、せん断剛性又は等価剛性は、それぞれの変化率が「鉛直荷重繰返し載荷4回のせん断剛性又は等価剛性の変化率が初期値に対して」     | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P261<br>20行目～         | また、パッド型ゴム支承については、鉛直荷重繰返し載荷前 <b>及び</b> 鉛直荷重の繰返し載荷回数、50万回、100万回、150万回、200万回(鉛直荷重繰返し載荷後)に達したときに、それぞれの <b>圧縮変位量</b> の変化率が±10%以内であれば圧縮作用に対する疲労耐久性を有すると考えられる。   | また、パッド型ゴム支承については、鉛直荷重繰返し載荷前 <b>に対して</b> 、鉛直荷重の繰返し載荷回数が、50万回、100万回、150万回、200万回(鉛直荷重繰返し載荷後)に達したときに、それぞれの <b>せん断剛性</b> の変化率が±10%以内であれば圧縮作用に対する疲労耐久性を有すると考えられる。  | ・「及び」→「に対して、」<br>・「圧縮変位量」→「せん断剛性」  | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P263<br>12行目～         | 1000回ごとの正負交番載荷 <b>6回のうち1回目を除く2～6回目の平均値</b> に対して、せん断剛性又は等価剛性は、 <b>それぞれ</b> の変化率が±10%以内であれば <b>圧縮作用</b> に対する疲労耐久性を有すると考えられる。  | 1000回ごとの正負交番載荷 <b>5回</b> のせん断剛性又は等価剛性の変化率が <b>初期値に対して</b> ±10%以内であれば <b>水平変位</b> に対する疲労耐久性を有すると考えられる。  | ・「6回のうち1回目を除く2～6回目の平均値」に対して、せん断剛性又は等価剛性は、それぞれの変化率が「5回のせん断剛性又は等価剛性の変化率が初期値に対して」<br>・「圧縮作用」→「水平変位」 | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P309(3)<br>1行目～       | 箱抜き施工精度は <b>表-6.3.1を満足するよう管理して施工する必要があるが</b> 、アンカーボルト孔～   | 箱抜き施工精度の <b>例を参考資料-18に示しており、参考にすることができるが</b> 、アンカーボルト孔～  | 表-6.3.1は存在しないので文章を修正   | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P370<br>表-参3.1        |  $P = \frac{\pi^3 p_0^3}{6} \left( \frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right)^2 \left( \frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right)^2$ $a = 1.107 \left\{ \frac{P}{E} \frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right\}^{1/3}$   | $E_1 = E_2 = E, \quad \nu_1 = \nu_2 = 0.3$ $P = \frac{\pi^3 p_0^3}{6} \left( \frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right)^2 \left( \frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right)^2$ $a = 1.109 \left\{ \frac{P}{E} \frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right\}^{1/3}$  | 表の列を示すタイトルが空欄  | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
|                       |   |  | $\pi_3 \rightarrow \pi^3$<br>(下付き→上付き)   | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
|                       |   |  | 1.107→1.109  | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P371<br>表-参3.1        |  $P = \frac{\pi^3 p_0^3}{6} r^2 \left( \frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right)^2$ $a^3 = \frac{3}{4} \left( \frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right) P$ $b = 1.52 \left( \frac{p}{E} \frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right)^{1/2}$ | $E_1 = E_2 = E, \quad \nu_1 = \nu_2 = 0.3$ $P = \frac{\pi^3 p_0^3}{6} r^2 \left( \frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right)^2$ $a^3 = \frac{3}{4} r \left( \frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right) P$ $b = 1.52 \left( \frac{q}{E} \frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right)^{1/2}$ | 表の列を示すタイトルが空欄  |                           |
|                       |   |  | $\pi_3 \rightarrow \pi^3$<br>(下付き→上付き)   | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
|                       |   |  | ( )前の「r」抜け   |                           |
|                       |   |  | p → q  |                           |

道路橋支承便覧 平成30年12月 正誤表

| ページなど                     | 誤   | 正                                      | 備考                        | 摘要                        |
|---------------------------|---|--|---------------------------|---------------------------|
| P394<br>3行目～              | 表-7.5.5の特性値を用いることも <u>も</u> できる <u>を</u> 考えられる。 | 表-7.5.5の特性値を用いることが <u>が</u> できると考えられる。 |                           | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P559<br>7.荷重-変位<br>履歴の右側  | 限界状態2( <u>1</u> 回目)                             | 限界状態2( <u>2</u> 回目)                    | 左右とも1回目となっているため、右側を2回目に修正 | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P560<br>7.荷重-変位<br>履歴の右側  | 限界状態2( <u>1</u> 回目)                             | 限界状態2( <u>2</u> 回目)                    | 左右とも1回目となっているため、右側を2回目に修正 | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P570<br>3.繰り返し回数-圧縮変位量の変化 | 3.繰り返し回数- <u>圧縮変位量</u> の変化                      | 3.繰り返し回数- <u>せん断剛性</u> の変化             | ・「圧縮変位量」→「せん断剛性」          | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |
| P570<br>表中の右上<br>4.計測値    | <u>圧縮変位量</u>                                    | <u>せん断剛性</u>                           | ・「圧縮変位量」→「せん断剛性」          | ①2019.7.24掲載<br>②第2刷で訂正予定 |